

事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

公表:令和2年3月27日

事業所名 清瀬市子どもの発達支援・交流センター

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・本来の定員よりも大幅に少ないが、安全面、療育の質等考慮した結果であるととらえている。	
	② 職員の配置数は適切である	○		・職員も手厚く個々を丁寧に見ている。 ・異年齢集団になるためお子さんの特性を見極めながら安全に配慮できる職員を配置している。	職員一人ひとりの発達のアセスメント力、支援力の向上をめざしていくことが必要である。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・動線に合わせた物の配置の工夫をしている。 ・持ち物の収納場所や活動内容、教材などは視覚情報を利用し、スムーズなやりとりにつなげている。	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・清掃の徹底	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・面談等を通してあがってきた意見をどう活かしているか、会議で取り上げている。	・安心した利用、信頼関係の構築につながるよう、保護者会とは別に月に一度保護者が集まる場を設けた。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		保護者会では結果説明は行っている。	・会報やHPの活用は不十分と思われる。今回の評価結果もホームページで公表を行う。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		令和元年度は第三者評価を受けていませんが、定期的に継続して第三者評価を受けています。評価結果は公表すると同時に業務改善に活かしている。	
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		職員研修計画に沿って専門性につながる内外の研修に参加しています。	支援者としてセンター職員全体で共有しておく機会をさらに増やしていきたい。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・定期的に評価し、保護者の意見・意向を取り入れた支援計画の作成・実施。	
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・発達検査などで多角的に捉えている。 ・知能検査系は必要時、実施している。	
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			

	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・週1回の打ち合わせで丁寧立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・打ち合わせが綿密に行われている。	・より専門性を活かした上で、個々の発達に応じたバリエーションのあるプログラムを考えていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・個別の開始時期や内容等を十分に検討し、成果を上げている。 ・取り出しの個別療育や交流保育等、かなり丁寧にやっている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・当日の動き、役割分担の確認を行っている。 ・保護者からの子どもの情報も必要に応じて職員間ですぐに共有している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	○		・毎日確実に次につながる振り返りを実施している。	・毎日の振り返りを週に一度の会議でさらに職員全体で共有している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・客観・主観を分けて記入することでアセスメントの振り返りにつなげる。	・日々の記録がモニタリング、児童発達支援計画の見直しにつながっている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・保護者のニーズや意見の聞き取りも大切にしている。日々の職員の振り返りが活きている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・健康推進課とは年に2回の会議をもちけており、その他必要に応じて連携している。	・センター全体で他機関連携の必要性を共有している。 ・子育て支援、所属園とは情報の共有がスムーズにできる関係性がある。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		今年度は特に該当者なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連携体制を整えている	○		・今年度は日常的な医療的ケアが必要な子どもはいなかったが、保護者を通して医療機関の情報を共有している。 ・災害時に備え服薬の預かりを行っている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・見学を含め必要に応じて情報共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・就学先には就学シートや必要に応じて直接、引継ぎを行うなど、柔軟に対応している。	・就学判定会への参加を求められており、必要な情報を共有できる。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・他所からの見学も多く、その際に他所の状況を聞くことができる。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			・必要な時には交流保育を取り入れ、地域保育園児たちとの交流の場がある。	・部分的である。 ・利用者全員に機会があるわけではないことは課題であるが、近年

保護者への説明責任等	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・適任者が参加し、その情報を共有している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・連絡帳を有効に活用するだけでなく、日頃の送迎時のやり取りも大切にしている。	・保護者の様子から必要に応じて面談につなげることもある。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・保護者会とは別に月に1度の保護者の集まりを家族支援として位置づけ、職員がファシリテーターとなり、子どもの対応を一緒に考えている。	・先輩保護者に来所してもらい、就学先選びや子どもの特性理解について、横並びの視点で語ってもらうことが家族支援につながっている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時には必ず行うが、必要に応じて手紙、保護者会等での説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・ガイドラインに基づく支援内容を設定している。 ・保護者への説明を行い同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡帳の活用、送迎時の保護者の様子から必要時には面談につなげている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会、先輩保護者との保護者交流会、月に一度の保護者の集まり等を開いている。	・曜日によって会うことのない保護者との交流の場もできた。 ・とこと運動会(とこりんピック)を土曜日に開くことで父親の参加もあり、保護者同士の交流の場ともなった。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・体制の整備を行っている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・定期的ではないが、必要時に発信はできている。	・少人数のメリットを活かし、保護者会等を有効に活用している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・個人情報保護規定及び個人情報保護ポリシーを定めて明示している。 ・職員一人ひとりに法内での職員研修でも、事業でも周知している。	
非常時等の対応	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・個々の特性に合わせた支援を行っている。 ・代弁、ノンバーバル、視覚情報の活用等特性や状況に合わせて行っている。 ・保護者の話の傾聴、共感をベースに必要な配慮を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・年2回、事業所主催の講座を実施している。	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			・災害ダイヤルの訓練は実施しているが、他のマニュアル類は周知に不足している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・年に4回、地震・火災などの非常災害に対応した避難訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・今年度より、災害時用の内服薬の預かりについて検討し、保護者への説明を実施した。	

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		初回アセスメント時に聞き取りを行って、医師の指示書の提出をお願いしている。	
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・ヒヤリハットは毎週話し合いを行い、相談スタッフ会議も行われている。 ・事例集はないが、確認し合っている。	・ヒヤリハット事例集を作成したい。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待に関する研修に参加した職員からの伝達研修を行っている。	・事業所職員でセルフチェックを行うようにしている。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・身体拘束を行う利用者はいないが、組織的に決定し、保護者の了解を得た上で行うようにしていくことは理解している。	・計画に記載した前例はないが、説明は全員にしている。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。